令和元年度

事　業　報　告

社会福祉法人　ぬくもり福祉会

Ⅰ．法人本部

《総括》

社会福祉法第24条「経営の原則」の第１項には、「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図り提供する福祉サービスの質向上及び事業経営の透明性確保を図らなければならない」と規定されている。

また、時流と共に社会福祉法人の位置付けが大きく変化し、社会福祉法の改正により、同第２項に追加として、福祉ニーズへのきめ細かい対応と既存制度で対応できない人々を支援する位置付けとして公益性と非営利性を備えて貢献する体制を求められている。

このことから、当法人では今後も法人理念を堅持しつつ、業務を展開する地域内でのサービス専門性を高めながら、業務運営する各施設の個別性を発揮して利用者・家族へのきめ細かなサービスを展開しなければならない。

しかしながら、当法人を選択する新規利用者の減少、他法人に異動する利用者の増加がここ数年顕著にみられ、「サービスの継続性」において相当な危機感を持たざるを得ない。役職員一人ひとりが先人の思いを大切にしながら「サービスの後退」を招かないよう様々な課題を共有し、この難局を乗り切るべく叡智を結集しなければならない。

今後も、利用者・地域に選ばれる社会福祉法人として、時代に即応した福祉サービスを実施すべく、中長期計画に基づき、新規事業の展開や経営改革に取り組んでいきたい。

１．重点目標に対しての評価　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）人権の尊重

年間計画	取り組み	評価
福祉の理念と根本的に相容れない虐待、身体的拘束等を決して容認せず、根絶する姿勢を示します。	虐待事例はあったが、すべて事業所から安城市へ通報しており、適切に対応している。	○
利用者やその家族等からの苦情、相談に誠意を持って的確に対応するために、是正、改善の仕組みを点検し、的確に運用します。	苦情及び要望は７件に減少し、すべて苦情解決責任者において対応できた。事例は法人全体で共有している。	○

（２）サービスの質の向上

職員の専門的知識の習得、技術の向上のために、体系的な教育・研修プログラムを策定します。	一人ひとりの職員に合った研修に参加させているが、求める期待とずれていることがあった。	△
職員参加のもと、福祉サービス第三者評価の受審、利用者満足度調査等を通じてサー	自己評価とともに第三者評価の受審をし、要改善点を今後の運営に	○

ビス改善の取り組みを行います。	課題として取り組んだ。利用者満足度調査を行い、職員全員で今後の課題を共有した。	
利用者ニーズを的確に把握し、新たな福祉ニーズに対応する事業展開を研究検討します。（重度の　障害者への支援を可能とするグループホームの新たな類型の検討・フルハウス跡地利用の検討）	さらなる重度・高齢化に対応していくため、安城市の障害福祉計画、法人が作成する社会福祉充実計画に沿って、将来へ向けての対策を研究検討した。ニーズの把握とその具現化には、時間を要する見通しである、	△

（３）地域における公益的な取り組みの推進

地域自立支援協議会への参画、地域福祉計画をはじめとする各種福祉計画の策定への参画や行政を主体とした地域連携・協力のネットワークに参加、協力を行います。	地域自立支援協議会への参画をはじめ、第５期安城市障害福祉計画の策定に様々な立場で参画した。	○
災害時の取り組みとして、特定福祉避難所の取り組みへの備え等、地域住民の安全・安心な生活の確保に取り組みます。	安城市と福祉避難所としての協定を結び、事業継続計画の策定も継続していった。	○

（４）人材の定着に向けたの強化

採用後３年未満（特に１年未満）の職員に対するフォローアップを意図的、計画的に行います。（研修、面接、また育成担当者の配置等）	研修、フォローアップは継続して行っているものの勤務年数が短い者の退職者は毎年出ており、成果が出せなかった。	×
セクシャルハラスメント、パワーハラスメントの防止策、対応策を適切に講じます。	リーフレット等でハラスメントに対しての啓蒙を行い、対応窓口を複数設けた。	○
職員処遇の水準が適正であるかどうか、処遇改善の必要性やその可否を評価・分析するための取り組みを、定期的に行います。	処遇改善費の使途を全体のバランスをみながら若年層に多く配分することで、処遇への不満を減らす努力をした。	○
働き方改革関連法案施行によるワークライ	有給休暇の取得率が80％を超えて	

フバランス（仕事と生活の両立）に配慮した取り組みを行います。（勤務時間の適正化、有給休暇の計画的な取得等）	おり、取得を奨励している成果があった。 一般事業主行動計画を策定し、職員の周知に努めた。	○
産休・育休の円滑な取得及び復帰に向けて、組織全体でバックアップ体制を取ります。	一般事業主行動計画を策定し、職員の周知に努めた。２名の育児休暇取得者と１名の育児休暇からの復帰者があった。	○

（５）人材の育成

職員を適正に評価し、職員一人ひとりの自己実現、キャリア形成と組織が期待するものを調和させた人事制度・人事考課等の育成システムを見直します。	公平・公正な人事制度の構築をするとともにキャリアパスの明確化を行うことを目指し、自己申告の実施を行い、所属長が職員全員と面談を実施し、職員の意見の聴取に努めた。人事考課制度は外部の中小企業診断士に委託し、現行の制度の見直しを行った。	○
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行います。	研修計画を策定し、一人ひとりの職員に合った研修に参加させた。本人のキャリア形成のため資格取得の奨励、研修希望をとりながら、より実効性のあり研修内容に努めた。	△
利用者の重度・高齢化を見据え、職員一人ひとりの支援力、介護力の向上に努めます。	重度化を見据えた研修に参加させるなど試みは行ったが、実が伴っておらず、方策の検討が不十分であった。	×

（６）コンプライアンスの徹底

職員に対する社会福祉関係法令、労務関連法令、虐待防止法等の適切な理解を促す場の提供に努め、社会的ルールの遵守の重要性を普及・啓発します。	福祉施設の職員としてのルールの徹底を各管理者に課してきたが、それぞれ温度差があり、職員一人ひとりの十分な理解には至らなかった。	△

公益通報者保護法による、公益通報相談窓口（コンプライアンスホットライン）の設置をし、職員等からの法令違反行為に関する相談や通報の適正な処理の仕組みを定め、不正行為等の早期発見とその是正処置を図ります。	虐待と思われる行為には安城市へ自ら通報するなど組織の一員としての法令遵守の意識は醸成できていた。	○

（７）健全な財務規律の確立

社会福祉法の改正の趣旨に沿って適正な社会福祉充実残額を計上し、社会福祉充実計画の在り方について、地域のニーズに沿った長期的な視点に立ち、見直しをしていきます。	長期的な視点で、さらなる重度・高齢化に対応していくため、安城市の障害福祉計画、法人が作成する社会福祉充実計画に沿って、よりよい人材の確保、育成に努めたが、退職者が採用者を上回ってしまった。	△
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、その事業の将来性、継続性を見通した経営管理を行うとともに、限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い経営管理を実現するよう努めます。	社会福祉法人の公益性を鑑み、収益性が見込まれない部分への参入も含め、職員から意見を求める取り組みを実施した。	△

２．運営事業

（１）第二種社会福祉事業

ア．生活介護事業所ぬくもりの家（定員40名）
イ．生活介護事業所ぬくもりワークス（定員60名）
ウ．生活介護事業所まるくてワークス（定員60名）
エ．共同生活援助事業所アットホーム（定員18名）
オ．生活介護事業所ぬくもりの郷（定員20名）
　　共同生活援助事業所ぬくもりの郷（定員20名）
　　短期入所事業所ぬくもりの郷（定員６名）
カ．相談支援事業所　ぬくもり
キ．就労継続支援Ｂ型事業所安城市虹の家（定員25名）指定管理の受託

（２）公益事業

ア．地域生活支援事業
日中一時支援事業（ぬくもりの家・ぬくもりワークス・まるくてワークス・ぬくもりの郷）

３．役員会等の開催状況

（１）第１回理事会

令和元年５月28日（火）ぬくもりの郷
出席理事６名・監事２名

（２）第１回評議員選任・解任委員会
令和元年５月28日(火）ぬくもりの郷
出席委員３名・立会理事１名（常務理事）

（３）第１回評議員会
令和元年６月18日(火)
出席評議員７名・監事２名・立会理事２名(理事長・常務理事)

（４）第２回理事会
令和元年６月18日（火）ぬくもりの郷
出席理事６名・監事２名

（５）第３回理事会
令和元年８月８日（木）ぬくもりの郷
出席理事６名・監事１名

（６）第４回理事会
令和元年12月10日（火）ぬくもりの郷
出席理事６名・監事１名

（６）第５回理事会
令和２年３月17日（火）ぬくもりの郷
出席理事６名・監事１名

（７）監事監査
令和元年５月14日（火）ぬくもりの郷
出席監事２名・立会理事１名（常務理事）

４．リスクマネジメントの状況（延べ件数）　※（　）昨年度実績

	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくてワークス	アットホーム	ぬくもりの郷	相談支援	虹の家	事務局	計
ヒヤリハット事例	44	7	2	2	8	0	10	0	73(94)
事故報告	20	8	30	3	32	0	4	4	101(119)
苦情報告	1	1	2	0	0	0	3	0	7(19)
虐待事例	0	2	0	0	1	0	0	0	3(1)

５．第三者評価の受審状況

全事業所において、自己評価とともに第三者評価の受審をした。要改善とされた事項は、速やかに改善に取り組んだ。

６．職員研修の実施状況

ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行った。

７．会報の発行

法人の会報を発刊し、施設の内容などの紹介を行い、地域住民の理解を深めるよう努めた。

（１）発行回数　年２回
（２）発行部数　1,100部
（３）配 布 先　保護者・手をつなぐ親の会会員・福祉関係施設・行政機関
ボランティア団体・北明治連合町内会・赤松町内会・池浦町内会
城南町内会・学校等

８．職員の在籍状況（育児休業中職員を含む）

（１）採用と退職状況（人）

	R01年度当初	採用	退職	R02年度当初
常　勤	53	3	6	50
非常勤	79	6	4	81

（２）有給休暇取得状況

勤 続 年 数	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	平均
取得率（%）	0.0	90.1	98.0	85.3	78.3	76.7	75.0	82.9
取得日数（日）	0.0	9.1	12.0	15.6	15.7	15.3	15.0	13.6

（前年度取得率80.4%、日数13.0日）

９．借入金の状況

（１）福祉医療機構からの借入状況（令和２年３月３１日現在）　単位：円

借 入 目 的	借入年度	借入金額	令和元年度償還状況	借入残高
まるくてワークス施設整備	17年	30,000,000	元金1,500,000 利息 136,500	9,000,000
ぬくもりの郷施設整備	24年	80,000,000	元金4,032,000 利息 678,300	52,080,000
ぬくもりの郷Ⅲ施設整備	27年	30,000,000	元金2,016,000 利息 165,690	21,000,000
計		140,000,000	元金7,548,000 利息 980,490	82,080,000

（２）借入金の償還財源の状況　単位：円

区　　分		金　　額	内　　訳
元利償還金(令和元年度)		8,528,490	元金7,548,000 利息980,490
財源	自 己 資 金	6,169,490	本部会計
	補 助 金	2,359,000	愛知県（民間社会福祉施設運営費補助金）
令和２年度償還予定額		8,441,970	元金7,548,000 利息893,970

10. 寄付金の状況

（１）事業活動による収支の部

	本　部	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくてワークス	ぬくもりの郷	安城市虹の家
ぬくもりの家保護者会	1,437,000	27,5406				
ぬくもりワークス保護者会	1,940,400		5,000			
まるくてワークス保護者会	2,661,400			22,000		
ぬくもりの郷保護者会	623,043					
保　護　者						
企　業	61.358		20,000			
団　体		20,000		20,000		
個　人	2,000,000	26,105		23,000		
計（円）	8,723,201	73,645	25,000	65,000		

Ⅱ．ぬくもりの家

《総括》

事業計画のもと、利用者の権利擁護を土台に「地域とつながる」「外に出る」ことを大切に支援を行った。Web学習「サポーターズカレッジ」を視聴学習する習慣がついており、また一昨年度までときどき見られた利用者さんを「君づけ」「ちゃんづけ」で呼ぶことは激減したことから権利擁護意識は高まっている。特に健康増進を目的にウォーキングを毎日の取り組みの中心に据えていることは、情緒の安定やインフルエンザ等の感染予防につながっており、ご家族にも喜んでもらっている。

また、地域サロン「ふれあい喫茶わくわく」に毎回参加し、できる範囲で利用者さんもお手伝いすることで福祉委員、地域の高齢者、交流センタースタッフと交流ができ地域の福祉力向上の一役を担うことができている。ただ、年度終盤には新型コロナウィルスの影響でそのような機会もなくってしまった。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）権利擁護意識の向上と支援員のスキルアップ

年間計画	取り組み	評価
支援に関するすべての基本は権利擁護と考えます。利用者さんを「〇〇さん」と呼ぶことを徹底します。	「利用者さんを〇〇さんと呼ぼう」キャンペーンポスター掲示と「虐待の芽チェックリスト」実施により「〇〇さん」と呼ぶことが徹底されてきたがごく一部の職員がたまに「〇〇くん」と呼ぶことがあった。	〇
Web学習「サポーターズカレッジ」を継続して視聴することで権利擁護意識を高め、維持します。	毎回のクラスミーティングで必ず視聴している。現場で活かされる場面も見られ権利擁護意識は向上していた。さらに活かしていくことが課題。	〇
「本人らしさ」「その人らしさ」とは何かを追求し、ストレングス（長所・強み）に着目した支援を行います。	ストレングスに着目という意識は支援員間で共有できている。ただ、「全員に対してできているだろうか」という反省も共通意識として残った。	△
「意思決定支援」とは単に本人の意思を尊重することでなく「自己決定」「自己選択」できるようサポートすることだと認識	支援員は常に「自己決定」「自己選択」を意識して支援している。全員に対してできているだろうか	〇

して「決める場面」「選ぶ場面」を提供します。	という反省もあるが可能な限りの実践をした。	
個別支援を心がけますが、支援する側は「チーム」なので「チームで行う個別支援」であることを忘れないよう朝礼・終礼・ミーティングでの合意形成を大切にします。	朝礼・終礼の時間を活用して常勤職員は十分な情報共有と合意形成ができた。ただ、非常勤職員も含めてすべての支援員に徹底するという点では、できていないこともあった。	△
法人内はもちろん法人外の他事業所とも交流し、情報や知識を深め良い支援につなげます。	特定の支援員は十分できているが、全員が他事業所との交流をできたとはいえない。ただし、常勤職員はみな他事業所との交流が大切なことを理解している。	△
支援員は担当クラス以外にも積極的に入って、視野を広げ支援力を磨きます。	可能な限り、担当クラス以外にも入って支援力を磨いた。以前よりも他クラスに入って行きやすい雰囲気が醸成されてきた。	○

（２）地域との関わり

年間計画	取り組み	評価
積極的に外へ出て利用者さんを知っていただく機会とします。そのことが地域の福祉力アップにつながると考えます。また恵まれた地域の社会資源を活用します。	ほぼ毎日、活動の中心であるウォーキングで外へ出ることができた。またその際、アンフォーレ等の社会資源を積極的に活用し地域の方々と関わりをもつことができた。	○
「ふれあい喫茶わくわく」では参加者としてだけでなく「あいさつ当番」の役割をいただき、地域の方々と積極的にふれあいます。	当番は「ふれあい喫茶わくわく」で定着している。これをきっかけにウォーキング中に地域の方に声をかけていただく場面もみられた。さらに多くの利用者さんが参加し、ふれ合いを深めることが課題。	○
未体験のことを体験することがその後の自	あんくるバスに限らず、「未体験	△

己選択の幅を広げると考え、活動の中であんくるバスや電車を利用します。	のことを体験する」ことが全員に対しては継続的にはできなかった。	
町内会、ボランティアネット北明治の会など地域とのネットワークを大切にします。	年間通じて町内会、ボランティアネット北明治の会と共に活動することができた。	○

（３）環境及び健康増進

年間計画	取り組み	評価
看護師と支援員の連携・役割分担によりインフルエンザ等の感染予防に努めます。	看護師を中心に手洗い、消毒の重要性を支援員が共通理解し取り組むことができた。インフルエンザの罹患者はゼロだった。	○
より清潔で快適な環境で活動できるよう美化意識を高めます。	支援員は美化意識を高く持って、毎日の清掃を行った。また利用者さんもできる部分は一緒に行うことができた。	○
利用者さんに「わかりやすい伝え方」を心がけます。写真やイラストを使い、「見える化」に努め安心につなげます。	「わかりやすい伝え方」を心がけて支援を行った。ただ、その検証が十分されなかった。本当にわかりやすかったかを検証する必要があるという反省が残った。	△
支援員の笑顔が利用者さんの笑顔につながると考え、「笑顔」を大切にします。	支援員はみな「笑顔を大切に」を意識している。家族アンケートからも「職員がいつも笑顔」というコメントが複数あった。100%できているわけではないという反省は残るものの、ほぼできたということで○。	○
「ウォーキング」を活動の中心に据え、良質な睡眠や風邪予防に努めます。	毎日の活動の中心に据え、健康増進だけでなく地域の方々の目に触れる機会となった。	○

《生活介護事業》

１．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(人)	男性	16	16	15	15	15	15	15	15	14	14	14	18	210
	女性	19	19	19	19	19	19	19	18	17	17	17	17	207
	計	35	35	34	34	34	34	34	33	31	31	31	35	417
出席率(%)		86.0	82.6	86.2	86.6	82.8	85.9	85.0	87.0	87.9	86.5	87.6	84.3	85.7

※１．在籍者数は初日在籍数　※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	15	クラス別懇談会
5	15	健康診断
	25	ぬくもりチャレンジ運動会
	31	木下大サーカス鑑賞
6	11	いちご狩り
	13	嘱託医健診（歯科）
8	23	ぬくもりフェスタ
	11	防災訓練
	21	お楽しみ会（ボウリング・カラオケ大会）
10	6	北明治レクリエーション大会
	18･26	日帰り旅行
	15	えだ豆収穫交流
11	15	ぬくぬくふれあいコンサート
12	20	クリスマス会
1	24	新年会
2	3	豆まき
	18	保護者会勉強会（防災講演会）
3	18	防災訓練

月行事					
	誕　生　日　会	おでかけランチ	嘱託医検診	音　楽　療　法	合同カラオケ
	サークル活動	体　重　測　定			

※個別面談はサービス等利用計画に合わせて誕生月を基準に６ヶ月ごとに実施

３．**ボランティア受入状況**（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	2	大学・専門学校	13	社　　協	
北明治ネット	25	保護司関係		民 生 委 員	15
ＪＡ青年部	15	高　校　生			
音 楽 協 会	6	中　学　生	2	合　　計	66

４．**実習生受入状況**（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中　学　生	3	大　学　生	134	学 校 教 諭	0
専門学校生	20	高　校　生	48	合　　計	205

《日中一時支援事業》

１．**事業内容**

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的の事業。10月の町内運動会「北明治レクリエーション大会」に参加するため10名が利用した。他は利用なし。

Ⅲ．ぬくもりワークス

《総括》

施設開所から25年が過ぎ、保護者も高齢化が進んでいる。昨年度実施したアンケート調査では「高齢になり親子で旅行する機会がなくなって寂しい」との意見があり、今回親子日帰り旅行を企画した。参加された保護者は「久しぶりに親子で出かけられて嬉しかった」など好評であった。職員も日頃見られない親子関係を垣間見ることができ、加えて、個別支援計画作成時の参考にもなり、とても有意義であった。また、サークル活動のちぎり絵は、12月開催の「ふれあいアート展」出展を目標に創作意欲を高めて取り組んだ。また、「働く場」として安定して働き続けられるよう継続的な支援と工賃向上に取り組んできたが、利用者の高齢化や重度化、個別対応が必要な方が増え、いろいろ対応策を講じたがあまり作業は効率が上がらなかった。

１月下旬頃から新型コロナウイルスが流行りだし、感染対策として検温・手洗い、換気、クレベリンの設置、施設内の消毒等を徹底、さらに施設外に出る行事の自粛やボランティア、日中一時の受け入れ中止など、すぐに取り組めることを実施してきた。その効果か今年度インフルエンザに罹患した利用者はいなかった。

利用者の状況については、男性２名が他法人のグループホームに入所が決まり、5月末で退所された。他事業所の短期入所の利用も増えており、令和２年度から３名の男性利用者が、他事業所のグループホームを利用することが決定している。

出勤率については、目標達成はできなかったが前年度と比べ出勤率が1.5％高くなった。要因としては、膝関節の手術及びリハビリによる長期入院（１名）の利用者の退院後の利用について相談員を中心に調整会議を開き、他事業所との併用利用することで再開できた。また、休みがちであった利用者（男性）も利用計画を見直し、親の送迎とぬくもりの郷グループホームの利用が決まったことで改善に繋がった。

施設整備は、２件の助成金を受けることができた。デンソーハートフル基金は老朽化した作業棟のシャッターの改修、中央競馬馬主協会はフォークリフトの買い替えをした。

日中一時支援は、法人利用者以外の方にもサービスを提供できるよう努めてきた。

【重点目標】　　評価：○(できた)・△(だいたいできた)・×(できなかった)

※利用満足度の向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み及び結果	評価
(１)意思決定支援を尊重するとともに、ストレングスを活かした個別支援計画の作成と実践をします。	利用者のストレングスに着目した支援計画を作成している。相談支援員とも連携できている。	○
(２)健康管理と魅力ある活動(余暇活動)の充実を目指します。	朝昼の検温、手洗いや消毒、クレベリンの設置など健康管理と予防に努め、インフルエンザ等の蔓延を防いだ。 創作活動はふれあいアート作品展へ出展をするなど目標を持って取り組んだ。	○
(３)満足度調査(年１回)を実施して利用率の拡大に繋げます。前年度の調査結果をもとにいただいた意見を取り入れ、改善に努	朝礼後に散歩を毎日行っていたが、調査結果に身体を動かす機会を増やして欲しいとの意見が多く、親への周知が	△

めます。　※目標出勤率・・・93%	不足していたため、保護者会の際に実施していることを伝えた。出勤率は前年度より上がったが、目標達成はできなかった。　＊出勤率・・91.5%	
(4)将来の生活安定に繋がるように工賃向上に努めます。個々のニーズに合わせて「働くことの楽しみ」と「工賃を得た喜び」を高められるような作業支援を心がけます。(障害基礎年金２級の方でも、安心してグループホームで生活ができるように）※目標月額平均工賃・・13,500円	個別面談等で作業についての習熟度を伝えるたり、工賃支給日にはその使い道を聞くことをしてきたが、振込のため工賃を得た喜びまでには結びつかなかった。 目標工賃は達成できた。 ＊月額平均工賃・・14,569円	△
(5)就労へ関心のある方には関係機関と連携をして支援します。	ハローワークの求人情報から本人が興味を示した企業の見学をしたが、内容が難しく、就職には繋がらなかった。	△

※地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

(1)恋塚まつりの開催や町内会行事、福祉祭りなどに参加して地域との連携を強化します。	９月恋塚まつりには、市長や議長などの来賓と多くの来場者で盛会だった。町内会とごみ拾い交流会を実施し、また町内文化祭に作品を出展、公民館祭り等の販売会にも参加した。	○
(2)民生委員やボランティア等を積極的に受け入れ、福祉に対する理解の促進を目指します。	安城西部小学校生徒の福祉学習を受け入れ、障害者施設の役割と障害についての知識と理解を深められた。	○
(3)特別支援学校生徒の実習や見学者など積極的に受け入れ､開かれた施設を目指します。	職場実習の依頼があれば積極的に受け入れた。自立支援協議会が主催する進路について考える会に参加して保護者に施設の活動などＰＲをしたり、夏休みに施設見学の希望の安城特別支援学校の親子４組に丁寧に対応した。	○
(4)行政や相談支援機関と連携して､地域福祉推進に協力します。	通所担当者会に出席し、利用者ニーズ把握の課題や、福祉職のやりがいなど職員の育成を市役所や福祉事業者で検討したが、現場へは報告のみで展開までには至らなかった。	△
(5)地域共生社会を目指し、事業所ができることを検討していきます。	大学生、生徒の実習や見学等の際には相互に人格や個性を尊重し合い、多様な在り方を認め合える社会づくりを説明し伝えてきたが、十分ではない。	△

※人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

(1)社会福祉士や介護福祉士等の実習生を受け入れると共に､新たな人材確保と育成	昨年に続き社会福祉士の実習生依頼がなかった。介護福祉士、介護等体験、	△

に努めます。	看護学生の実習を受け入れてきたが、人材の確保には繋がらなかった。	
(２)必要に応じて支援・介護技術など内外の研修や勉強会に参加して専門性の強化をします。	課別ミーティングでWeb講座サポカレを隔月に視聴し、介護技術を高めた。３月に外部講師による研修を予定していたが、新型コロナウイルスで中止となった。	△
(３)条例等関係法令を遵守し、権利擁護意識の向上に努めます。	権利擁護委員会を中心に、虐待早期発見チェックや各自支援の振り返りチェックを実施した。今後も不適切な支援になっていないか確認をしていく。	△
(４)人事考課を強化することで､モチベーション向上に繋がるように取り組みます。	年２回主任、施設長と面談を実施しているが、職員のモチベーションの向上には繋がっていない。キャリアパスを話し合う機会を設け改善に繋げる。	×
(５)ハラスメントや労働災害(メンタルヘルス等)の対策と働き方改革の研修会を実施します。	働き方改革では、コンサルタントの指導を受け、働き方改革の目的と残業時間等の見直しについて学んだ。個人レベルの業務分析を行い、個人で改善できることは実施したが、法人全体での理解と協力が必要。	○

※組織運営体制の強化（マネジメントにおける基本姿勢）

(１)緊急時の対応やヒヤリハットなど定期的に会議を開催して、危機管理意識を高めます。	ヒヤリハット数７件、事故報告８件が挙げられ、その都度対応を話し合ってきたが、定期的に会議は開催できなかった。	△
(２)職員参加の下、提供するサービスについて定期的かつ継続的に自己点検(自己評価)を行うとともに見直しや改善に取り組みます。	第三者サービス評価の受審、全60項目の内、A－17、B－43の評価となった。評価機関からの気付きやヒントを職員で話し合ってより良いサービスが提供できるように見直しをしたが、十分ではない。	△
(３)財政基盤を強化するために、予算作成をとおして職員のコスト意識を高めます。また、日中一時支援の受け入れを推進していきます。	予算作成は職員で分担して行い、コスト意識を高めることができた。 日中一時は、新たな利用者の獲得できなかった。前年度よりも利用日数が20日ほど減っている。	△
(４)利用者の高齢化にともない介護保険サービス等との連携や施設体系を検討していきます。	介護保険サービスの連携に必要な利用者はいなかったが、骨折により車いす利用になった者には、医療関係の情報を基に施設で可能な支援で対応した。	△
(５)災害時に備えた組織的な取り組みを再	防火管理責任者が、安城市の福祉避難	

検討していきます。	所ワーキングチームのメンバーとなり災害時のRPGを体験したが、職場への展開はできなかった。	△

２．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(人)	男性	33	33	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	399
	女性	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	198
	計	50	50	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	597
出席率（%）		90.4	88.2	90.8	92.3	86.5	93.1	92.5	93.8	92.9	94.2	91.8	91.0	91.5

（前年度　89.7%）

※１．在籍者数は初日在籍数
※２．出席率は在籍数に対する出席率

３．年間行事　＊（　　）は実施日

月	施　設　行　事
4	入所式(1) 保護者会総会(9)
5	歯科検診/ブラッシング指導(9)　健康診断(半田医師会)(22)
6	いちご狩り(5) 赤松保育園とじゃがいも掘り交流会(13) 親子日帰り旅行(26)
7	避難訓練(9)　保護者会(10)　赤松町内夏祭り(28)
8	保護者ボラ(七夕まつりペットボトル洗浄)(5～7)　納涼会(15) 生活セミナー（講師　澤田巡査）(19)　保護者会勉強会(21)
9	恋塚まつり(14)
10	安城市福祉まつり(6)　保護者会・施設参観(9)　安城市福祉体育祭(21)
11	第三者評価受審(20)　嘱託医検診・インフルエンザ予防接種(21) 避難訓練(豊田市防災センター)(27)　愛知県歯科検診(28)
12	赤松町内美化交流会(4)　生活セミナー(11)　クリスマスコンサート(23)
1	初詣(６)　赤松町内公民館祭り作品出展(17~18)
2	保護者会(12)　生活セミナー（講師　澤田巡査）(25)　避難訓練(26)
3	お楽しみ会(18)

月行事					
	音楽療法	生け花	スポーツ	書道	ちぎり絵
	体重測定	血圧測定	外食(不定期)	嘱託医検診	

４．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	7	民生委員	12	高　校　生	69
保　護　者	12	大　学　生		生　け　花	22
赤松町福祉委員等	19	恋塚まつり	67	合　　計	208

（前年度　209人）

５．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中学生職場	30	大　学　生	70	学校教諭	6
特別支援学校	5	高　校　生	44	看護専門学校	22
慈恵福祉保育	40			合　　計	217

（前年度　201人）

６．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高（円）	内　　容
農作物	58,690	農作物の販売
タクマ産業（有）	920,264	自動車部品（ウレタン）選別
菓子製造（パウンドケーキ）	637,705	菓子の製造・販売
自主製品	157,410	縫製品製造・販売
富士カーボン（株）	710,120	自動車部品の加工
西三河セルプ	17,133	委託販売
ユニオンサービス	187,850	委託販売（日本ハム、カレンダー）
安城市（清掃事業所）	83,890	段ボールコンポスト製造・販売
安城市（清掃事業所）	2,941,000	ＥＭボカシの製造・配達
安城市（維持管理課）	25,000	リサイクル自転車の清掃
安城市（清掃事業所）	12,795,014	ペットボトル仕分け作業
名鉄百貨店	105,722	販促商品梱包作業
ナカムラ製菓	734,970	委託販売（せんべい）
フジイ化工（株）	123,104	エコキャップ選別
アルミ缶販売（安城貿易）	5,280	アルミ缶回収
ミカテック（株）	63,058	軽作業(新聞紙切断)

（株）アチーヴ	18,095	自動車部品加工
（株）杉本商会	310,893	販促商品（ゴミ袋）封入作業
（株）フォーユー商品	203,544	委託販売（マカデミアナッツボール）
（株）フォーユー	162,600	ナッツボール袋入れ
（株）神谷コンクリート	97,856	パッキンはめ
アンジョウハーツ（商工会議所）	132,320	キャップパネル梱包・商品梱包等
安城七夕まつり協賛会	129,800	ペットボトル洗浄・処理
サンブロードケミカル	228,992	自動車部品拭きあげ作業
デンソー（株）高棚製作所	50,000	エコキャップパネル作成
その他	80,607	七夕短冊・施設カレンダー
合　　計	20,980,917	（前年度 20,779,053円）

７．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計 9,775,964円　（前年度　9,946,912円）

１ヶ月平均工賃支給額　14,569円（１人当たり・賞与含む）　（前年度　14,353円）

＊工賃支給額÷支給延べ人数（671人）

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	17	20	15	20	15	14	19	14	14	11	17	17	193

（前年度 216人）

Ⅳ．まるくてワークス

《総括》

安城特別支援学校より新たに２名の利用契約者が加わり53名での生活介護事業でのスタートであったが、年度途中に状態の変化からぬくもりの郷へ移行(併用利用）された方・他事業所（Ｂ型事業所）に移行された方があり２名の減員となった。10月に開催の「まるくてBang！Bang!まつり」は大型台風19号接近のため中止となった。

入院や自宅での骨折等で長期欠席の利用者さんもおり、利用率は85.8％と昨年度を１％下回った。しかし、長期にわたり利用できていなかった利用者さんには電話連絡や家庭訪問を繰り返しおこなうことで、利用日を増やすことができた。

令和元年度の目玉として、ぬくもり福祉会社会福祉充実計画の事業計画に盛り込み、予算額1700万円でまるくてワークス施設内の改修工事をおこなった。ダムウエーター･シャワー室を撤去し、個室３部屋･広い更衣室･倉庫拡大･センサー式手洗い等々使い勝手にも重視しながら利用者さん各々の障害特性から相互の関係性や相性･個性に配慮し、できる限り快適な環境を整えることができた。この効果が見えてくるのは半年～１年後かと思う、利用者さんの意向に寄り添いながら見守っていきたいと考えている。

【 重点目標 】　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

１．利用者満足と支援の質の向上

年　間　計　画	取　り　組　み	評価
相談支援専門員と連携し、本人の意志決定に重点をおいた面談をおこない「生きがい」と「よろこび」を感じられる個別支援計画を作成し、支援にあたります。	面談時には本人が「何を期待してまるくてを利用しているのか」に耳を傾け、本人の意思・選択を重視した支援計画の作成を行った。	○
利用者満足を100％に近づけるためのアンケートを定期的に実施し、日中活動に反映させていきます。	第三者評価受審時の満足調査を基に、面談時や活動中にも直接利用者さんの声を聴く機会を持った。	○
新しい活動を取り入れるための選挙をおこない、活動の幅を広げていきます。	日帰り旅行先や「こんなことやってみたい」を選挙方式で決定した。	○
本人の希望するサークル活動や作業を選択すしていただき、日中活動をいきいきと本人が主体的に過ごせるよう支援にあたります。	作業選択は仕事の進捗状況を鑑み行った。サークル選択においても年度途中で変更できるなど柔軟におこなった。	○
利用者さん相互の関係性や個性に配慮しながら、できる限り快適で安全な環境を整えます。	施設改修工事をおこない、個室を３部屋つくり利用者さんの特性に配慮した支援をおこなった。	○

まるくてワークスの強みでもある給食を挟んでの保護者さんの参観日を設けます。	保護者さんより「毎年おこなわなくてもよい」との声があり実施せず、数年毎での開催とした。	×
全職員対象に「虐待防止法」研修を受講させ権利擁護意識を高め支援にあたります。	全職員のサポカレ受講と福祉協会からの「意志決定支援アンケート」を職員･利用者･保護者に実施し権利擁護意識を高めた。	○
職員の希望する外部研修等にも参加をさせ、モチベーションと専門性を高めます。	できる限り職員の意向を聴き、研修に参加させ、専門性の向上に努めた。	○

２.地域との連携の推進と強化を図ります。

地区社協開催の生活支援ネットワーク会議・地域会議に参加をし、地域福祉の担い手としての役割を考えていきます。	年4回の地域会議への参加と福祉避難所ワーキングチーム会議にも参加し地域ニーズの把握に努めた。	○
民生委員やボランティアさん等を積極的に受け入れ、障害福祉の理解促進と風通しの良い職場環境を目指す。	積極的に受け入れはおこなったがまるくてBang！Bang!まつり中止と近隣の方(高齢）が来られなくなり、例年と比べ42％減となった。	×
地域行事等には積極的に参加(販売・展示)をし、交流を図るとともに連携の強化を図ります。	近隣の公民館まつりや福祉センターまつりに販売・作品展示等積極的に参加をし、アピールした。	○
地元町内会の行事等では施設を町内資源として利用していただきながら、引き続き月2回の「ほっとサロン」にも参加していきます。	町内会行事の敬老会･芸能祭をまるくての食堂で開催した。また年間を通しほっとサロンにも参加した	○

３．安定した運営を目指す

来年度以降の利用者さんの増員を図るため、特別支援学校等からの実習生の受け入れに力を入れていきます。	特別支援学校から5名の実習生を受け入れ、2名の新利用者を受け入れた。自己都合により1名の退所者。	△
魅力ある活動と「ぬくもり」のある支援を提供し利用率が９割以上となるよう努めます。	全体の利用率は85.8％と前年度を下回ったが、電話連絡･家庭訪問等	

また、日中一時支援も積極的に受け入れて行きます。	をおこない、出席率が向上した利用者さんもいた。また日中一時支援の受け入れは19.5%増と頑張りました。	△
休日の販売や地域イベントに利用者さんと共に参加をしていきます。	休日販売･イベント参加は人気があり、積極的に取り組むことができた。	○
遵守事項を守り、コスト意識を持って業務にあたります。	物品購入は在庫確認表をもとに適切な発注をおこなった。	○

《生活介護事業》

１．年間利用実績　　前年度実績（86.8%）　1%減

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(人)	男性	30	30	30	29	29	29	29	29	29	28	28	28	348
	女性	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	288
	計	53	53	53	52	52	52	52	52	52	51	51	51	636
出席率（%）		85.0	83.0	85.0	85.6	80.0	89.0	89.0	86.0	85.0	87.6	89.5	88.7	85.8

※１．在籍者数は初日在籍数
※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．保護者との連携

（１）３ヶ月ごとの保護者会開催 ～・勉強会「障害者の高齢化」ぬくもりの郷 牧宏樹
・（福）観寿々会バストマト・アスパラトーズ
施設見学～昼食をはさんで勉強会

（２）年２回の三者面談（モニタリング）をとおして利用者本位の支援の連携強化。

３．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	1	新年度入所式（安城特別支援学校2名）
	9	保護者会総会
5	2	球技大会（ボッチャ・玉入れ・ドッジボール）
	20	健康診断（半田医師会）
6	4	いちご狩り（鈴木農園）
7	9	保護者会（勉強会～障害者の高齢化）

8	14	盆踊り大会
9	10	アンサンブルドルチェコンサート
	25	日帰り旅行先決定選挙
10	3	県歯科検診
	9	保護者会（施設見学～観寿々会バストマト・アスパラトーズ）
	12	まるくてBang！Bang!まつり（台風接近のため中止）
	19	安城市福祉体育祭
11	1	日帰り旅行（ナガシマスパーランド）
	7	改修工事開始
	15	ぬくぬくふれあいコンサート（昭林公民館）
	27	名フィルコンサート（刈谷）
	29	消火訓練
25	25	クリスマス会（ヤマザキパン～ケーキ寄付）
1	6	初詣（池浦天満宮）
	19	新年会（ボーリング＆焼き肉 1課）
	21	保護者会　改修工事終了
	24	新年会（ボーリング＆焼き肉 2課）
2	3	豆まき
3	24	まるくて選挙投票
	31	納会

月事	お楽しみランチ	サークル活動	体　重　測　定	血　圧　測　定	ほっとサロン
	ア ピ タ 販 売	嘱託医検診(毎月第4火曜日)		市役所販売（年３回）	

４．ボランティア受入状況（延べ人）　前年度(278人）42%減

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	133	中高大学生	4	専門学校生	0
池浦福祉委員	0	サークル講師	10	民 生 委 員	13
				合　　計	160

５．実習生受入状況（延べ人）　前年度(232人）14%減

区　分	計	区　分	計	区　分	計
専門学校生	40	大　学　生	83	特別支援学校	23
高　校　生	54	中　学　生	0	合　　計	200

６．授産事業

（１）作業指導のねらい

利用者個々の能力と適応性に応じた作業の技術習得と「はたらく」ことからの喜び・生きがいを実感できるよう支援した。

（２）工賃の支給額を作業状況、生活態度、対人関係を総合的に評価し決定した。

７．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高（円）	内　　容
コーヒー豆	986,299	自家焙煎珈琲製造販売
山田製菓	1,280,868	かりんとう・ドーナツ販売
自主製品販売	121,815	布草履・座椅子など
サカキバラコーポレーション	111,855	バリ取り
大見工業	525,560	チップソー防錆液添付・箱詰め
ケーエス開発	89,567	ロート
安城市清掃事業所	264,000	土嚢袋
増田煙火	127,684	花火組み付け
安城市指定ゴミ袋販売	469,500	燃やせるゴミ袋等
タクマ産業	1,077,961	ダクトシール貼り・パッキン
シン英鋼業	8,552	アルミ缶
稲徳煙火	224,952	花火組み付け等
銀のさら	8,932	袋詰め
玩具	74,470	おもちゃ等販売
セルプ	120,630	共同販売
コミュニティー道路清掃	39,100	池浦町内道路清掃
杉本商会	91,289	新聞店サービス品（袋詰め）
その他	298,509	ブライダル･農作物･豚置物等
合　　計	5,921,552	

８．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計(賞与２回含む)　　2,520,252円
１ヶ月平均工賃支給額　　4,118円（１人当たり・賞与含む)

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）特別支援学校生や在宅又は就労等している障害者の平日の日中における活動の場を提供し、簡単な相談を受けながら情緒の安定と本人の居場所をつくるとともに家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）　前年度(200人)　19.5%増

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	22	20	17	18	19	20	22	17	20	18	21	25	239

Ｖ．アットホーム

《総括》

令和元年度は旧フルハウスの建物解体が完了した。今後は土地の売却に向けて進めていく。

今年度は他事業所からの兼務者を置かずに事業所単体で配置基準を満たし充実した職員配置ができた。

３月に安城市自立支援協議会 ホーム担当者会主催のグループホーム見学会を行う予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

こやまホームでは、ご家庭の事情に配慮して一部の利用者の支援のため一定期間土日の運営を行った。９月にめろんぱんの入居者が決まり定員が満たされた。

１．重点目標に対しての評価　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）自分らしい暮らしの支援

年間計画	取り組み	評価
日頃から利用者様のストレングスに着目した支援をしていきます。また、個別支援計画にも本人の持つ個性やストレングスを盛り込み、それを活かして自分らしい生活ができるよう支援していきます。	本人のストレングスを個別支援計画書に明記することにより計画作成の方向性がこれまでよりも具体化した。また個別面談等を通して利用者個々のニーズを把握し本人が望んでいることを大切にしながら無理のない範囲で実現できるよう支援した。しかしながらどこまで本人の「心の声」に 寄り添うことができたか常に意識していく必要がある。	△
充実したオフタイムを大切に「自分の家」にいるようなホッとした気持ちになれるホームを目指します。	リビングや居室など好きな場所でお気に入りの過ごし方ができるよう可能な限り配慮した。しかしそれが本当に本人の「そうしたい」という過ごし方であったかは不明なことである。	△
季節に応じた食事やイベントを通じて、豊かでぬくもりある生活ができる環境を提供します。	一部のホームでは地域の防災訓練や七夕祭りなどに参加することがあり普段はなかなかできない経験を積むことができた。 外食や誕生会またクリスマス会など季節に合わせたお楽しみ行事を企画して、普段のホーム生活の中にも少し彩りが加わり利用者や保	

	護者にも楽しんでいただけたと思う。 めろんぱんでは新入居者のご家族も参加したクリスマス会を行うことができた。	○
「やりたくない」の気持ちも大切にして無理な押しつけはしません。	散歩や買い物など活動や過ごし方について本人の意向を確認しながら行った。しかし、それが利用者の本心であったかははっきりとは分からないこともあった。	△

（2）安心した暮らしと健康管理

年間計画	取り組み	評価
より質の高い個別支援計画によるサービス実践により満足度を高めます。	本人の意向やサービス等利用計画書とのリンク、本人のストレングスに基づいた内容になるよう計画を立てた。形としては整ってきたが、計画通りに支援が実行されているかは常に検証していく必要がある。	△
自己評価を通し、自らのサービスを見直す機会を設けて現在ある課題を見極め改善することでよりよいサービス提供に努めていきます。	令和元年度は第三者サービス評価を受審した。外部の視点を受けこれまでの支援のあり方を見直す機会となった。	○
サビ管とスタッフ間の報・連・相を徹底し情報が円滑に伝わるよう努めます。またその方法を探求していきます。	毎週のフェイスタイムや毎月のミーティングを通して 情報共有し現状を把握することに努めた。その中で今ある課題等を確認することができた。しかし細部に至るまで課題が改善されたかは検証が必要。	△
ホームぬくもりの土日運営に向けてスタッフ配置など実現に向けて取り組みます。	グループホーム見学会を通して1名のスタッフを確保することができた。それにより土日の運営がより安定した。	○

めろんぱんの送迎がより安全・安心・効率的に行えるよう努力します。	5月より送迎バスからアットホームスタッフによる送迎に変わった。このことにより利用者の乗車時間の短縮やバス停までの送迎が不要になりスタッフが業務により専念できた。住宅地であるまたホーム周辺の交通事情にも配慮が必要でなくなった。	○
訪問看護やスタッフとの連携により、インフルエンザ等の感染症を始め、普段からの健康管理に努めます	訪問看護事業所や各スタッフ、また日中事業所との情報共有により体調変化などがあった時に通院をするなど早期対応ができた。 インフルエンザに罹患する利用者はいなかった。	○

（３）権利擁護意識の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者様には「〇〇さん」と呼ぶことを徹底していきます。	各ホームのミーティングやサポカレの視聴を通しこれまでよりも「さんづけ」の意識が高まってきた。しかしながらこれまでの癖が完全に抜け切れていないことも事実である。今後も継続して呼称の徹底をしていく必要がある。	△
ホームスタッフが一同に集まって集の全体ミーティングを行い、情報共有や親交を深められるよう検討します	各ホームは毎月のミーティングが徹底されていたが、ホームを超えて全スタッフが一同に集まることはできなかった。 ２年度は10月に行事計画として位置づけた。	×
インターネットを使った「サポーターズカレッジ」の講座視聴や研修参加などを通して利用者の権利擁護意識を高めスタッフ一人一人の育成を続けていきます。	各ホームのミーティングの冒頭で視聴をする取り組みを行った。今後も継続して権利擁護の意識高揚に努めたい。	△
安城市自立支援協議会と協働して、支援者を育成するための講座を開催します。また	６月に慈恵保育福祉専門学校への出張講座を行い生活の場であるグ	

ホームに関する啓発活動を通じて人材確保にも努めます。	ループホームについて説明をした。 ３月に予定していたグループホーム見学会は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けやむなく中止となった。次回に向けて取り組みは継続していく。	△

《共同生活援助事業》

１．年間利用実績　（体験利用含む）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍数者(人)	男性	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	女性	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	55
	計	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	163

２．住居ホーム（定員14名）

（１）めろんぱん　　（定員４名）安城市柿碕町
（２）ホームぬくもり（定員４名）安城市大東町
（３）こやまホーム　（定員６名）安城市新田町

Ⅵ．ぬくもりの郷

《総括》

ぬくもりの郷は、利用者の生活を総合的に支援することを目的とした事業所であり、本来別の事業である生活介護事業、共同生活援助事業、短期入所事業、日中一時支援事業が有機的に連携できる仕組みづくりに努めてきた。生活介護事業は、安定して通えるようカリキュラム等の支援内容の工夫に努めたが、年度途中の退所、月単位で入院された利用者があり、出席率は81.4％の利用となり、前年比5.2％の減となった。

生活介護事業所の他の事業も、支援内容、職員の勤務シフト等も一定の形になってきたと思われるが、利用者の重度高齢化に対処しきれていない場面もみられた。今後はスタッフの意識、介護技術の向上を目指し、利用者の状態変化に伴うサービスの質の低下を招かないよう、利用者満足度を常に意識しながら、基本理念に基づいた支援体制の充実をさらに図りたい。

短期入所は、安城市の地域生活拠点等の緊急時の受入先の一つとなり、公益的なセーフティネットとしての役割を与えられ、３件８日の利用があった。以前から緊急時には受入先となってきたが、ますます需要が増えることが予想されるため、より安心できる体制を整えていくことが求められる。

１．重点目標に対しての評価　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者の人権を尊重し、個人の尊厳を守ることの重要性について認識が深められるよう研修等を通じて、虐待防止法など社会的ルールの遵守の普及・啓発に努めます。	虐待防止について常勤職員を対象に定期的に啓蒙し、非常勤職員に対してはオンライン学習によって理解を深めた。	○
現在のサービスが的確に行われているか確認するため、福祉サービス第三者評価の受審、利用者満足度調査を実施します。	第三者評価を実施し、要改善点は速やかに改善するよう努めた。 利用者満足度調査は、前年度同様行い、ほぼ満足しているとの結果になった。保護者に対し、給食の試食会を実施し、好評だった。	○
利用者の体調に合った刻み食など食の様々なニーズに応えるため、調理員を中心に研究していきます。	ほとんどの利用者が刻み食対応になっており、調理員と連携をとることで、食の安全と楽しみを提供することができた。	○
利用者の重度、高齢化の対応を的確にできるよう、支援力、介護力ともに質の高い人材の教育育成に取り組みます。	高齢障害者への取り組みは研修等の派遣により実施したが、知識と実際のサービスの提供が伴わなっ	△

	ていないと思われた、	
生活介護、グループホームにおいて、家族の高齢化に伴い、必要な利用者の通院同行ができる体制をつくり、さらなる医療との連携を深めていきます。	生活介護、グループホームと嘱託医、訪問看護ステーションの連携をとり、必要な医療の提供の機会と通院同行を適切に行ってきた。	○

（２）地域との交流と連携

地域交流広場の活用、作品展、イベントの開催等、地域に開かれた施設つくりに取り組みます。	感謝祭は前年度同様行い継続は力なりと感じた。地域交流広場の存在がアピールが足らず、活用が十分にされなかった。	△
実習生・職場体験等の学校教育への協力、ボランティアの育成、地域住民との交流等を通じて、地域の福祉に対する理解を促進し、地域における福祉文化の醸成に取り組みます。	実習生等の受け入れは前年度同様行っており、その都度実習生に感想を聞き、知的障害者福祉への理解の深まりを感じることができた。	○
安城市の地域生活支援拠点等のとしての一翼を担うため、緊急時の受入体制を整えます。	コーディネーターとの連携をとりつつ、３件８日の利用があり一定の役割を果たした。	○

（３）人材の育成・確保

労務管理における責任体制を明確にし、適正な労使関係の構築に努め、働き方改革関連法案施行に伴う働きやすい職場環境にしていきます。有給休暇取得率80％を目指します。	シフト制で不規則になりがちな勤務をなるべく職員に希望に添えるような勤務体制つくりに努めた。有給休暇の取得率は92.6％と目標を大きく上回った。	○
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、一人ひとりの職員の成長段階に応じた仕事量の配分とそこで必要となる教育、研修の実施を行います。研修プログラムは、専門性、組織性、社会性のバランスを考慮したものとし、法人が主体的に行う研修とを本人が望む研　修を組み合わせながら、研修を一元的に推進する体制を整えます。喫緊の課題	支援のみならず介護技術の向上を図るよう取り組んできたが、本人のやる気任せだったところがあった。非常勤職員に対して面談を行い、意見の集約に努めたが、研修の参加が勤務上困難なため実施ができなった。その代替としてオンライン学習を進めているが、自主的な学習はみられなかった。	×

の重度高齢化に備えるため、職員の医療知識の向上に特化した取り組みを実施します。		

（４）安定した財務基盤の構築

財務諸表等に基づく経営分析等により、稼働率、人件費率など事業の運営状態を適切に把握し、適切な収益性の改善に繋げます。生活介護事業の稼働率は90％を目指します。グループホームは、現員を定員の１００％にします。	利用者満足度を高めつつ、稼働率を増やせるよう取り組んだが、長期入院等もあり、稼働率は81.4％となり、前年度を下回り、目標にも達しなかった。グルーホームは定員の100％を達成した。	△
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、現在の報酬体系の理解、利用者の支援区分の把握、介護保険制度との連携を通じて、適切な収益性の確保に向け、その事業の将来性、継続性を見通した計画的かつ効率的な事業運営を行います。	現在の報酬体系で、加算のとれるものは積極的に取り組みを行った。介護保険制度との連携まではできなかった。	△
限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い運営管理を実現するため、職員全体のコスト意識を醸成するための取り組みを行います。	事業計画書の作成を通じて、予算管理の重要性を理解できるようにしたが、職員全体には周知が足らなかった。	△

《生活介護事業》

※（　）昨年度実績

１．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(※1)	男性	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	10	11	136
	女性	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	57
	計	16	16	16	17	17	17	16	16	16	15	15	16	193
出席率（%）		86.7	85.8	85.0	77.7	74.2	78.2	81.0	81.3	78.6	85.7	86.3	74.4	81.4

※１．在籍者数は初日在籍数　　(86.6%)

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事　※（　）実施日

月	施　設　行　事				
4	花見（5）				
5	健康診断（16）木下大サーカス(24)				
6	いちご狩り(7) じゃがいも掘り(25)				
7	歯科検診(4) 避難訓練（12）				
8	夏まつりレクリエーション(28)				
9	アールブリュット展出品・見学(13) 保護者参観(17)				
10	ブラッシング指導（3）日帰り旅行（18）ハロウィン（31）				
11	避難訓練（18）インフルエンザ予防接種（25）福祉コンサート(27)				
12	愛知県ボッチャ大会(14) 保護者会合同クリスマス会（20）				
1	新年会・ボウリング・カラオケ（17）ポップサーカス(31)				
3	避難訓練(31)				
月活動	誕生日会	外食	チャレンジスポーツ	アート書道	音楽療法
	リラクゼーション	個別活動	機能訓練	嘱託医検診	

３．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　般	27	大学・専門学校	0	サークル講師	0
民生委員	7	高校生	4		
				合　計	38(52)

５．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	合計
社会福祉士実習	53	介護等体験実習	67	125(157)

《共同生活援助事業》

１．事業内容

（１）利用者が自立を目指し、地域において共同生活を営むことができるように個別支援計画を作成し、それに基づき世話人等より生活する上で苦手な部分（食事や健康管理等）の支援を受け、安心して生活できるよう努めた。

（２）地域とのつながりを大切にするため町内会に加入し、町内ふれあい夏まつり、町内運動会、町内一斉清掃、防災訓練等の地域が開催する行事に積極的に参加するなど地域住民と理解を深めるよう努めた。

２．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍数者(人)	男性	12	12	12	12	12	11	12	13	13	13	13	13	148
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	計	19	19	19	19	19	18	19	20	20	20	20	20	232

(221)

《短期入所事業》

１．事業内容

（１）居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者に対し、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて必要な支援を行った。

　主には「家族の入院」「家族の不幸」などの緊急時対応と「将来に向けて宿泊訓練がしたい」という希望、さらには「家族の介護負担の軽減」のニーズがあり、なるべくニーズに応えるよう努めた。

（２）グループホームとの併設型であるため、グループホーム利用者の生活の安定を優先し、受け入れも安全面を十分に配慮するように努めた。

２．利用実績（延べ人）

事業所名	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくでワークス	ぬくもりの郷	虹の家	一般	計
利用者数	93	101	83	25	6	2	310(301)

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	151	144	168	135	159	153	98	154	157	136	143	140	1,738

(1,761)

Ⅶ．安城市虹の家

《総括》

安城市の指定管理を受託して最終年の３年目となった。利用者・保護者の方をはじめ、安城市との信頼関係も年々深まってきている。年明けの１月下旬ころから新型コロナウイルスの影響で作業も全体的に減少傾向となったが何とか乗り切ることができた。また、施設外に出る活動や販売活動も自粛して感染予防に努めた。

利用者の状況は、男性１名が精神疾患で入退院を繰り返し、情緒が不安定となり、施設利用が難しい状況になったため11月末に退所された。家庭の事情により長期欠席されていた男性が１名は、相談員を中心に調整会議を行った結果、義姉の協力が得られ通所できるようになり、出勤率が上がった。また、通退所時に子供や女性へ声をかけ、ボディータッチなど迷惑行為をする男性利用者の対応として、通退所時に見回りを行ったり個別に話をするなどの対応を行ってきたが、効果的な支援方法を引き続き模索していく。

活動においては、定期的に自治会を開催し、自治会長を中心に社会体験や外食などの行事について話し合い実施することができた。また、保護者には施設参観を企画して、一緒に作業を行っていただくことで作業の様子や職員の対応などを知って頂く機会を設けた。

今年度も職員研修の一環として、全職員にサポカレを視聴しての勉強会を行い、障害特性や虐待･意思決定支援などの専門性を高めたが、継続して勉強会を行っていく必要がある。

最後に、毎月安城市と定例会議を実施してきた。今年度その成果として、照明器具やオーブン等の機器、厨房や相談室の間仕切りを設置していただき、作業環境が大きく改善された。次年度から５年間の指定管理が決まり、今後も連携を保ち良好な関係を築いていきたい。

目標工賃では、新規作業を取り入れたことで目標を達成することができた。

１．【重点目標】　　評価：○(できた)・△(だいたいできた)・×(できなかった)

※利用に対するサービスの向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み及び結果	評価
(1)利用者のプライバシー、個人情報保護に配慮し、個々のスキルを把握したサービス提供に努めます。	保護者より利用者の前で個人情報を話をしており、自分もされているのではないかと不安になったと苦情をいただく。その都度、ミーティングを行い、情報共有と再発防止に努めた。	×
(2)利用者及び家族とのコミュニケーションを深めます。	随時自治会を開き、社会体験や外食・お楽しみ会などを企画を話し合った。保護者に施設参観を１日１組限定として約１時間利用者と一緒に作業体験をしていただき、活動の理解を深めた。	○
(3)日常生活面に課題を持っている方には相談支援事業所と連携をとって課題の改善を支援します。	相談支援員と連携を図りながら保護者と提案や面談をその都度実施した。	○
(4)定期的に利用者にミーティング、保護者には活動報告会を開催し、意見交換する機会を設けます。	自治会を不定期ではあるが実施し行事の企画等を行った。活動経過報告会を６、９月に開催し、意見交換できた。	○

(5)サービス満足度調査(年1回)を実施、さらなる魅力ある活動提供に努め、利用率の拡大につなげます。 ＊目標出勤率　80%	サービス満足度調査を実施し、要望などを来年度の計画に盛り込むようにした。欠席が多い方（１名）は義姉のサポートや祝日の利用も少しずつ増え目標達成できた。　　出席率　80.4%	○
(6)作業種目の見直しを行い、施設外作業を取り入れるなど作業選択の幅を広げ、工賃向上を目指します。 ＊目標月額平均工賃…10,000円	新規の作業を取り入れ工賃向上に取り組んだものの、受注が減少したものもあり、大きく変化はしなかったが目標月額平均工賃は達成することができた。　　＊結果・・11,438円	○
(7)就職するために必要なスキル・マナーの向上に努め「働く」ことへの意識を高めます。	掃除機のかけ方の研修会を実施し、清掃に対する意識を高めた。あんステップでの清掃作業を通して、働く意識が高まった。	△
(8)自立支援協議会の就労担当者会に参加して、事業所間の連携を深めます。	自立支援協議会の就労担当者会の会長職に就き、他事業所と連携を深めた。	○

２．地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

(1)利用者の方と福祉祭りに参加して施設製品等の販売をするなど地域との連携を深めます。	利用者と一緒に施設製品の販売を行った。リピーター客も増え、昨年度の売り上げを超えることができた。	○
(2)地元町内会との関係を深め、福祉に対する理解の促進を目指します。	城南町内会まつりや防災訓練に参加したり、子供会や学校のリサイクル活動に協力した。	○
(3)特別支援学校生徒の実習や見学者など積極的に受け入れ、開かれた施設を目指します。	特別支援学校から職場体験実習を受け入れた。また、施設見学もその都度受入れ対応した。	○
(4)行政と連携して、地域福祉推進や災害時における安全・安心な生活確保に協力します。	安城市と毎月定例会議を実施し、業務報告や設備改善要求等連携は十分できたが、地域福祉推進は行えなかった。	△

３．人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

(1)積極的にボランティアを受け入れ、新たな人材確保と育成に努めます。	中部善意銀行からボランティア体験と市内の中学校の職場体験実習を受け入れた。人材確保/育成はできなかった	△
(2)必要に応じて支援・介護技術など内外の研修や勉強会に参加して専門性の強化をします。	研修参加後に報告書の作成と報告会を行った。また、サポカレを全員で視聴して、勉強会を行った。	△
(3)条例等関係法令を遵守し、権利擁護意識の向上に努めます。	サポカレを通して勉強会を行い、意識を高めた。	△
(4)人事考課を強化することで､モチベーション向上につながるように取り組みます。	フィードバック面接を通して評価を行い、課題も明確にすることでモチベーションが高まるように努めた。	△

(5)ハラスメントの防止策、対策及び労働災害防止策(メンタルヘルス等々)を講じます	ハラスメント防止ポスターを掲示し、不定期で内容の確認を行ったが、非常勤までは十分に行えなかった。	△

4．組織運営体制の強化（マネジメントにおける基本姿勢）

(1)緊急時の対応やヒヤリハットなど定期的に会議を開催して危機管理意識を高めます	ヒヤリハットは各施設で起きた内容を回覧して周知した。施設内でヒヤリハット事例があった場合は対応を協議した。緊急時の対応は、防災訓練時に役割などの確認を行った。	△
(2)職員参加の下、提供するサービスについて定期的かつ継続的に自己点検(自己評価)を行うとともに見直しや改善に取り組みます。(PDCAの実践)	今年度は、第三者評価を受審した。 受審前に自己評価を行い、会議で協議を行いながら確認した。 今後は第三者評価で頂いた課題を取り組んでいく。	△
(3)財政基盤を強化するために、予算作成を通してコスト意識を高めます。	事業計画を立ててから計画に合わせて事業計画予算を行った。今年度の収支と合わせて来年度の予算を作成した。	○

2．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(※1)	男性	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	128
	女性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	19	19	19	19	19	19	19	19	18	19	18	18	224
出席率（%）		74.6	75.4	81.1	80.3	70.2	80.5	86.2	79.2	85.8	83.1	81.9	86.9	80.4

※１．在籍者数は初日在籍数
※２．出席率は在籍数に対する出席率

3．年間行事

＊（　）の数字は実施日

月	施　設　行　事
4	昭林公園お花見(2)
5	健康診断(21)
6	イチゴ狩り(3)　外食の日・社会体験(4.11.13.18)　活動経過報告会(21) 防災・消火訓練(21)
7	歯科検診(11)
8	防災セミナー(2)　血圧測定(26)
9	活動経過報告会・防災講座(20)

10	安城市福祉体育祭(19)				
11	町内防災訓練(2)　手洗い講習会(8)　城南町まつり(10)　社会体験(21.22)				
12	社会体験(12.13)　お楽しみ会(20)				
1					
2	防災訓練(6)　就労セミナー(13)　血圧測定(21)　通報訓練(26)				
3	周辺清掃(18)				
月行事	誕生日会	体重測定			

４．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	合　　計
一　　般	41			41

（前年度　36名）

５．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	合　　計
中　学　生	10	特別支援学校	4	14

（前年度　13名）

６．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高(円)	内　　容
クッキー製造（自主製品）	906,310	クッキー・チュイール 製造・販売
あんステップ	1,001,710	トイレ・会議室・廊下の掃除
杉本商会	554,956	ゴミ袋封入作業
富士カーボン	546,700	カーボンブラシ箱詰め作業
フジイ化工	33,832	エコキャップ選別作業
アルミ缶	12,190	アルミ缶潰し作業
名刺印刷	15,732	名刺印刷作業
アチーヴ	86,082	自動車部品組み立て
エルスタット	1,220	ＰＰバンド結束作業
合　　計	3,158,732	

（前年度　3,260,927円）

７．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　2,550,705 円　　（前年度　2,713,878円）

１ヶ月平均工賃支給額　11,438 円（１人当たり・賞与含む）（前年度 12,564円）

Ⅷ．相談支援事業所　ぬくもり

《総括》

法人内各事業所において、年に２回実施している利用者・保護者面談に相談支援専門員が同席する形態でサービス等利用計画及び継続サービス利用支援の確認を行ってきた。

制度の一部変更により、令和元年度は、モニタリングの頻度が必然的に増え、利用者の話や満足度を直接聴く機会が増えた。また、サービス等利用計画の計画更新のときには、本人の生活を支える各支援事業所に面談参加を依頼し、多角度から現状確認共有するための「サービス担当者会議」を基本通りに開催できるように支援関係者との調整を継続した。利用者本人を中心とした支援チームとして機能するよう、それぞれの役割が顔の見える形で話し合われたこと、モニタリング回数が増え利用者と会う機会が増えたことで、利用者及び家族の安心につながる支援目標の共有イメージが深まった。

法人内・法人外利用者に関係なく、誰もが地域で自分らしく生活していくためには一つの事業所、一つの法人では課題解決に至らないケースが点在しており、相談支援事業所の相談支援専門員が人と社会資源等をつなぎ、地域全体で支える仕組みが熟成していく過程において、自立支援協議会、個別支援会議等を通して基幹相談支援事業所や委託相談支援事業所等と連携していくことが一層求められる。

１．契約者数（人）

令和元年度利用契約者（平成30年度契約者数）

ぬくもりの家	27名（30名）	ぬくもりワークス	45名（47名）
まるくてワークス	44名（46名）	ぬくもりの郷	13名（15名）
アットホーム	１名（１名）	安城市虹の家	10名（11名）
法人外利用者	86名（73名）		
		合計	225名（223名）

（１）変動理由

ア．法人内利用者

・法人外事業所利用
・相談支援事業所の閉鎖（２事業所）による支援引継ぎ
・本人死去
・新規利用契約
・地域生活支援のみ利用

イ．法人外利用者

・法人内事業所から法人外事業所利用
・相談支援事業所の閉鎖（２事業所）による支援引継ぎ
・サービス利用再開、新規利用契約

《事業報告》

研修参加

・愛知県相談支援専門員協会総会・研修会
　令和元年６月10日（鈴木・野村・林）
・障害者の権利擁護と成年後見
　令和元年７月10日（林）

自立支援協議会　相談担当者会

４月16日（火）
・自己紹介
・貸付・食糧支援について（生活相談係　黒田氏）
・今年度の年間予定
・例外的支給について
・高齢障害者の方の利用者負担軽減制度について

５月21日（火）
・安城市障害福祉サービス　Ｑ＆Ａの作成について
・例外的支給について
・座談会（グループワーク）
・就労事業所空き状況について
・「体制変更について」のアンケートについて
・事業所紹介シートの変更について

６月18日（火）
・作業部会報告について
・訪問入浴について（事例を基に検討）
・事業所情報の共有について
・例外的支給について

７月17日（水）
・作業部会報告
・訪問入浴について（障害福祉課　樅野さん）
・事例について（ひだまり・ふれあいサービスセンター））
・65歳到達時、更新時の介護認定について
・例外的支給について

８月20日（火）
・作業部会報告について
　移動支援について（飯野氏）　　体制変更について　　緊急シートについて
・地域コーディネーターの現状と仕事内容について（山北氏）
・移動支援について検討
・地域包括との交流会について
・サルビア閉所について（樅野氏）

９月18日（水）
・ゆいりすホーム　ホームの説明（戸田氏）
・サルビー見守りネットについて（市役所高齢福祉課　早川氏）
・包括との交流会について
・例外的支給について

10月16日（水）
・作業部会報告
・例外的支給について
・緊急シートについて（山北氏）
・入浴支援について（グループワーク）
・事業所紹介（２事業所）

11月19日（火）
地域包括・障害相談　勉強会
・事例発表①
・事例発表②
・意見交換
12月17日（火）
・安城市の地域福祉について
・例外的支給決定
・体制変更について
・事業所紹介シートについて
１月21日（火）
・作業部会報告
・例外的支給決定
・相談支援の現状について
・来年度のテーマにつながる課題及び取り組みについて（グループワーク）
２月18日（火）
・作業部会報告
・例外的支給決定
・来年度の会長・副会長について
・来年度の課題取り組みについて
・Ｑ＆Ａについて（市役所障害福祉課　樅野氏）
３月17日（火）
＊コロナウイルス感染拡大防止のため中止

相談担当者会　勉強会

５月31日（金）　スキルアップ勉強会
「福祉用具の特徴や申請手続きについて理解する」
６月15日（火）　スキルアップ勉強会
「発達を促す上手なかかわり方」
７月10日（水）　スキルアップ勉強会
「アンガーマネージメント」
８月６日（火）　スキルアップ勉強会
「担当者会議の進め方」
10月31日（金）　スキルアップ勉強会
「応用行動分析（ＡＢＡ）入門編」
12月17日（火）　地域共生社会に向けて事業所ができることについて
講師：総合福祉センター　野々山館長
１月24日（金）　基幹研修会
「虐待防止について」
２月27日（木）　スキルアップ勉強会
「応用行動分析学（ＡＢＡ）入門編」